

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	数学	2. 東書	新編新しい数学 1 ～MATH CONNECT 数学のつながり～ 新編新しい数学 2 ～MATH CONNECT 数学のつながり～ 新編新しい数学 3 ～MATH CONNECT 数学のつながり～
取 扱 内 容	○ 数と式については、第1学年では、身長を平均を工夫して求めたり、収穫したりんごの個数を求めたりする活動を通して、正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。第2学年では、運動場のトラックにセパレートコースをつくる際のスタート地点の差を求めたり、バスケットボールの3点シュートと2点シュートの本数を求めたりする活動を通して、文字を用いた式と連立二元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができるようになっている。第3学年では、2つの続いた奇数の積に1を加えるとどのような数になるか予想し、証明したり、ロープで囲んだ長方形の面積を調べたりする活動を通して、数の平方根、多項式と二次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。 ○ 図形については、第1学年では、同じ形に着目し、新しいしきつめ模様をデザインしたり、2種類のテントの広さを比べたりする活動を通して、平面図形と空間図形についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察することができるようになっている。第2学年では、三角定規の特徴を電話でどのように説明するとよいか考えたり、ロボットがしやがむ動作を行うとき、上体を安定させるためのしくみを考えたりする活動を通して、平面図形と数学的な推論についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の性質や関係を論理的に考察し表現することができるようになっている。第3学年では、池をはさんだ2地点間の距離を縮図を使って求めたり、写真に黒板の両端がぴったりと入るカメラの位置を調べたりする活動を通して、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができるようになっている。 ○ 関数については、第1学年では、水そうに水を入れ始めてからの時間と水の深さの関係を調べたり、数の範囲を負の数に広げ、比例と反比例の性質やグラフの特徴を考えたりする活動を通して、比例と反比例についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察することができるようになっている。第2学年では、水を熱し始めてからの時間と温度の関係をグラフで調べたり、保冷バックに入れたペットボトル飲料を10℃以下に保てる時間を予想する方法を考えたりする活動を通して、一次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。第3学年では、斜面を転がる球の転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べたり、ブレーキ痕が25mのときの自動車の走行時の速さを推測したりする活動を通して、関数 $y = ax^2$ についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。 ○ データの活用については、第1学年では、現在のチームと優勝時のチームの1500m走の記録を、表やグラフに整理し、分布の特徴を読み取ったり、A社とB社では、どちらのツアーの方がクジラに出会いやすいかを考えたりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっている。第2学年では、2枚のスクラッチカードを削るとき、最も出やすい組合せを樹形図や表を使って説明したり、牛乳の販売数を曜日ごとに表した箱ひげ図を比較し		

	て、その傾向を調べたりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっていく。第3学年では、ミニトマト300個の糖度の平均値を、標本調査で推定したり、「みんなが選ぶ卒業ソングランキング」をまとめるための調査の方法や結果が適切であるかについて考えたりする活動を通して、標本調査についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができるようになっていく。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第1学年では、文字式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、本棚をつくるのに必要な棒の本数の求め方を考えたり、図に表した求め方を式に表して、説明したりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第2学年では、平行線と角の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、角の大きさを求める方法を考えたり、求め方を比べて、共通点や相違点について話し合ったりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第3学年では、三角形と比の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、四角形の各辺の中点を結んでできる四角形について調べたり、条件を変えて調べた結果について話し合ったりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
内容の構成・排列	○ 内容の構成・排列については、第1学年では、整数の性質の学習において、自然数の範囲で考える素因数分解をする学習の後に、負の数の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第2学年では、三角形の学習において、二等辺三角形の基本的な性質を三角形の合同条件で証明する学習の後に、逆や反例を使って表現する学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第3学年では、二次方程式とその解き方の学習において、平方根の考えによる解法の学習の後に、因数分解を利用した解法の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。
使用上の配慮等	○ 「節の導入」、「〇〇の利用」では、生徒の身のまわりにある題材を扱ったり、MATHCONNECTとして、「数学」と「数学・身のまわり・社会」とのつながりを示し、数学の有用性を実感できるようにしたりするなど、生徒の学習意欲を高めるよう工夫されている。（全学年） ○ 「Q（考えてみよう・調べてみよう）」では、「補助発問」を手掛かりに、生徒が既習を生かすことができるようにしたり、章の問題Aに章で働かせた見方・考え方を振り返ってレポートにまとめる「章のふり振り返りレポート」を新設したりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。（全学年） ○ 文節のまとまりなどの読みやすい位置で改行したり、カラーユニバーサルデザインの徹底や小さい文字にユニバーサルデザインフォントを採用したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。（全学年）
その他	

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	数学	4. 大日本	数学の世界 1 数学の世界 2 数学の世界 3
取 扱 内 容	○ 数と式については、第1学年では、各地の最高気温と最低気温について調べたり、天秤で釣り合う場合のおもりの重さを求めたりする活動を通して、正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。第2学年では、体育大会のトラック競技のレーンをつくる際のスタート位置の決め方を考えたり、封筒1枚と写真1枚の重さを求めたりする活動を通して、文字を用いた式と連立二元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができるようになっている。第3学年では、正方形の面積から1辺の長さを考えたり、「数当てゲーム」を行い、相手が選んだ数を考えたりする活動を通して、数の平方根、多項式と二次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。 ○ 図形については、第1学年では、卒業生が校庭にタイムカプセルを埋めた地点を求めたり、身のまわりの立体をグループ分けしたりする活動を通して、平面図形と空間図形についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察することができるようになっている。第2学年では、移動させて重ね合わせることができる2つの図形について調べたり、リボンを重ねたときにできる3つの四角形に共通する特徴を調べたりする活動を通して、平面図形と数学的な推論についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の性質や関係を論理的に考察し表現することができるようになっている。第3学年では、校舎の高さを直接図らずに求める方法を考えたり、「さしがね」を使って、丸太の中心を求める方法を考えたりする活動を通して、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができるようになっている。 ○ 関数については、第1学年では、秒速3mで走る選手の4秒前や4秒後の地点を調べたり、12Lの容器に水を入れたときの満水になるまでの水量と時間の関係を調べたりする活動を通して、比例と反比例についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察することができるようになっている。第2学年では、満水になるまで一定の割合で水を入れていくときの時間と水面の高さを調べたり、標高と気温の関係から、富士山の気温を予想したりする活動を通して、一次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。第3学年では、斜面を転がるボールの転がり始めてからの時間と距離の関係を考えたり、時速100kmで走る自動車の停止距離を求めたりする活動を通して、関数 $y = ax^2$ についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。 ○ データの活用については、第1学年では、クラスの生徒の「10cm」の長さの感覚を紙テープを使って調べ、そのデータの傾向を調べたり、コイン、瓶のふた、ペットボトルのふたの「表になる場合の起こりやすさ」を調べたりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっている。第2学年では、1年生と2年生の「1週間の読書時間」の分布の様子や散らばりの程度を調べたり、さいころを投げたときの、「1の目」「4以下の目」「偶数の目」が出る確率について調べたりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な		

	概念や原理・法則などを理解するとともに、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっている。第3学年では、A市の中学校で、睡眠時間が6時間未満の生徒の割合を調査する方法について考えたり、標本調査を利用して、英和辞典の見出し語は全部で何語あるかを推定したりする活動を通して、標本調査についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第1学年では、加法、減法の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、Aさんの考えについて、加法の考え方が正しいかどうかを判断したり、考えの工夫について説明したりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第2学年では、式と計算の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、文字を使った式の減法の計算が間違っている理由を説明したり、複数の方法で式の値を求め、考えを比べたりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第3学年では、二次方程式の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、二次方程式の解き方が正しいかどうかを判断したり、二次方程式の「3つの解き方」について、それぞれの特徴や気付いたことを説明したりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
内容の構成・排列	○ 内容の構成・排列については、第1学年では、数の世界の広がりや学習において、自然数の素因数分解をする学習の後に、正の数、負の数の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第2学年では、三角形の学習において、二等辺三角形の基本的な性質を三角形の合同条件で証明する学習の後に、逆や反例を使って表現する学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第3学年では、二次方程式の学習において、因数分解による二次方程式の解き方の学習の後に、平方根の考えを使った二次方程式の解き方の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。
使用上の配慮等	○ 章や項の導入、利用の場面では、学習する課題の題材を身近なものから選択したり、「MATHFUL（マスフル）」として、数学の歴史や数学者、美術や音楽などの芸術分野との関わりを紹介したりするなど、生徒の学習意欲を高めるよう工夫されている。（全学年） ○ 項の導入には「考えよう」を設置し、生徒自らが問題や疑問を見いだすことができるようにしたり、数学の有用性に気付くことができるよう、学習の区切りで、学んだことを振り返ることを促す質問を設けたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。（全学年） ○ 重要な部分を強調するなどレイアウトを工夫したり、ユニバーサルデザインフォントを使用したりして、読みやすさに配慮したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。（全学年）
その他	

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	数学	11. 学図	中学校 数学 1 中学校 数学 2 中学校 数学 3
取 扱 内 容	○ 数と式については、第1学年では、正方形を100個つくる時の必要なストローの数を調べたり、天秤で釣り合う場合のクリップの重さを求めたりする活動を通して、正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。第2学年では、連続する3つの整数の和に共通する性質について考えたり、11枚綴りの遊園地のチケットを使い切った場合の乗り物の乗り方を考えたりする活動を通して、文字を用いた式と連立二元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができるようになっている。第3学年では、連続する2つの偶数の積に1を加えた結果について考えたり、正方形の面積から1辺の長さを考えたりする活動を通して、数の平方根、多項式と二次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。 ○ 図形については、第1学年では、「麻の葉」と呼ばれる日本の伝統的な文様の中から図形を探したり、身のまわりの立体を分類したりする活動を通して、平面図形と空間図形についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察することができるようになっている。第2学年では、一枚の付箋を折って重ねた部分の図形について調べたり、段ボール箱の開いている部分の四角形の対辺がいつでも平行になっていることを証明したりする活動を通して、平面図形と数学的な推論についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の性質や関係を論理的に考察し表現することができるようになっている。第3学年では、工作用紙の罫線を使って手紙を三つ折りにする方法を考えたり、コンパスや分度器を使って、海図上で、船の位置を求める方法を考えたりする活動を通して、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができるようになっている。 ○ 関数については、第1学年では、水そうに水を入れてからの時間と水位の関係を調べたり、数の範囲を負の数まで広げたときの数量の関係について話し合ったりする活動を通して、比例と反比例についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察することができるようになっている。第2学年では、標高と気温の関係から、富士山の頂上の気温を予想したり、水を熱し始めてからの時間と温度の関係をグラフで調べたりする活動を通して、一次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。第3学年では、スキージャンプで滑り始めてからの時間と滑り降りた距離の関係を表やグラフで調べたり、自動車がブレーキをかけたとき、止まるまでに進む距離の求め方を説明したりする活動を通して、関数 $y = ax^2$ についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。 ○ データの活用については、第1学年では、2つのクラスの「ルーラーキャッチ」の記録を比べ、どちらのクラスの反応が速いかを調べたり、国勢調査のデータを基に、都道府県の人口の傾向について話し合ったりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっている。第2学年では、2枚の硬貨を同時に投げるとき、1枚が表でもう一枚が裏になる確率を表や図を使って考えたり、過去と現在の降水量について、度数分布表や箱ひげ図を使っ		

	て比べたりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっている。第3学年では、体育委員会で、球技大会でやりたい競技を決めるためのアンケートの取り方が有効かどうかを話し合ったり、ある湖にいる魚の総数を推定するために、湖の魚を袋の中の基石に置き換えて考えたりする活動を通して、標本調査についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第1学年では、比例と反比例の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、消毒用アルコールが何日後になくなるかについて話し合ったり、求め方を式やグラフを使って説明したりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第2学年では、式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、「連続する3つの整数の和は、3の倍数になる」と言えるか話し合ったり、文字式を使って説明したりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第3学年では、円周角と中心角の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、円周角と中心角の関係を予想したり、円周角と中心角の位置関係を、3つの場合に分け、それぞれの場合について証明したりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
内容の構成・排列	○ 内容の構成・排列については、第1学年では、正の数、負の数の学習において、符号のついた数の学習の後に、自然数の範囲で素因数分解をする学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第2学年では、三角形の合同条件の学習において、三角形の合同条件を使って証明の方法について理解する学習の後に、逆や反例を使って表現する学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第3学年では、二次方程式の学習において、因数分解を使った解き方の学習の後に、平方根の考えを使った解き方の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。
使用上の配慮等	○ 節の導入で、新しい学習内容への興味・関心が得られるよう、身近な題材を扱うとともに、話し合い活動を取り入れるため、「Q」を設けたり、章末の「数学へのいざない」として、章の内容を深めたり広げたりする興味深い事象を提示したりするなど、生徒の学習意欲を高めるよう工夫されている。（全学年） ○ 各章・各節のはじめに「疑問を発見する」ページを設定し、身のまわりの生活や数学の学習の中から疑問を発見できるようにしたり、章末の「できるようになったこと・さらに学んでみたいこと」では、自己評価を行うことができるようにしたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。（全学年） ○ 文章を分節改行にすることで、誰もが読み取りやすくしたり、カラーユニバーサル観点を取り入れ、目に優しく判別のしやすい色使いによる紙面づくりをしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。（全学年）
その他	

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	数学	17. 教出	中学数学 1 中学数学 2 中学数学 3
取 扱 内 容	○ 数と式については、第1学年では、貸し出した本の冊数の平均値を工夫して求めたり、菜園をつくる際に必要な板の枚数を求めたりする活動を通して、正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。第2学年では、連続する3つの整数の和にどのような性質があるか予想し、説明したり、バスケットボールの3点シュートと2点シュートの本数を求めたりする活動を通して、文字を用いた式と連立二元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができるようになっている。第3学年では、2つの続いた奇数の積に1を加えるとどのような数になるか予想し、証明したり、ロープで囲んだ長方形の面積を調べたりする活動を通して、数の平方根、多項式と二次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。 ○ 図形については、第1学年では、宝探しゲームで宝物がある場所をどのように見つけたのか説明したり、アイスクリームの包み紙を開くときの図形を考えたりする活動を通して、平面図形と空間図形についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察することができるようになっている。第2学年では、スタンドグラスを図形とみなして、直線が交わってできる角について考えたり、遊園地の乗り物が動いている様子から図形の性質について考えたりする活動を通して、平面図形と数学的な推論についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の性質や関係を論理的に考察し表現することができるようになっている。第3学年では、樹木の高さを棒と影の長さを使って求めたり、丸太から一定の条件を満たす角材を切り出すために必要な丸太の大きさを求めたりする活動を通して、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができるようになっている。 ○ 関数については、第1学年では、水そうに水を入れ始めてからの時間と水の深さの関係を調べたり、数の範囲を負の数に広げ、比例と反比例の性質やグラフの特徴を考えたりする活動を通して、比例と反比例についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察することができるようになっている。第2学年では、プールに水を入れるとき、水そうの底から水面までの高さで水を入れる時間の関係について、表にまとめ、調べたり、水を熱し始めてからの時間と温度の関係をグラフで調べたりする活動を通して、一次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。第3学年では、斜面を転がる球の転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べたり、自動車の速さと制動距離の関係について考えたりする活動を通して、関数 $y = ax^2$ についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。 ○ データの活用については、第1学年では、紙コプターの滞空時間についての記録を表やグラフに整理し、分布の特徴を読み取ったり、スキーブーツのサイズと貸し出し回数を整理し、スキーの購入について考えたりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっている。第2学年では、2枚のスクラッチカードを削るとき、最も出やすい組合せを樹		

	形図や表を使って説明したり、京都の年ごとに冬日の日数を表にした箱ひげ図を比較して、その傾向を調べたりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっている。第3学年では、箱に入っているみかん75個の重さの平均値を標本調査で推定したり、国語辞典に掲載されている見出し語の総数を推定するための調査の方法や結果が適切であるかについて考えたりする活動を通して、標本調査についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第1学年では、文字式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、菜園をつくるのに必要な板の枚数の求め方を考えたり、図に表した求め方を式に表して、説明したりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第2学年では、平行線と角の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、角の大きさを求める方法を考えたり、求め方を比べて、共通点や相違点について話し合ったりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第3学年では、三角形と比の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、四角形の各辺の中点を結んでできる四角形について調べたり、条件を変えて調べた結果について話し合ったりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
内容の構成・排列	○ 内容の構成・排列については、第1学年では、整数の見方の学習において、自然数の範囲で考える素数と素因数分解についての学習の後に、負の数の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第2学年では、合同と証明の学習において、三角形と合同条件の学習の後に、証明のしくみとその進め方の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第3学年では、二次方程式とその解き方の学習において、因数分解を利用した解法の学習の後に、二次方程式の解の公式による解法の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。
使用上の配慮等	○ 「大切にしたい数学的な見方・考え方」で、数学的な見方・考え方を既習内容の具体例を基に紹介したり、数学の有用性を感じられるよう、実社会や生活、先端テクノロジーなどに関する話題を取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高めるよう工夫されている。（全学年） ○ 「○章を学習する前に」や「もどって確認」で、適宜、既習内容を振り返ることができるようにしたり、章末「学習のまとめ」では、学習感想を書かせる場面を設け、学習を振り返って評価・改善できるようにしたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。（全学年） ○ UDフォントを多くの箇所で使用したり、読みやすい改行や、余白を生かしたレイアウトなど、落ち着いて学べる紙面づくりに配慮したりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。（全学年）
その他	

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	数学	61. 啓林館	未来へひろがる数学 1 未来へひろがる数学 2 未来へひろがる数学 3
取 扱 内 容	○ 数と式については、第1学年では、ペットボトルキャップの個数の平均を工夫して求めたり、ケーキの値段を求めたりする活動を通して、正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。第2学年では、カレンダーで、横に並んだ3つの整数の和がどのような数になるか予想し、説明したり、36人を3人班と4人班に分けたりする活動を通して、文字を用いた式と連立二元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができるようになっている。第3学年では、2つの続いた偶数の積に1を加えるとどのような数になるか予想し、証明したり、通路の幅を求める方法を考えたりする活動を通して、数の平方根、多項式と二次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。 ○ 図形については、第1学年では、放牧場から川によって小屋へ帰る道のりが最も短い場合を求めたり、いろいろな立体の形をした水そうの容積を調べたりする活動を通して、平面図形と空間図形についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察することができるようになっている。第2学年では、たこ揚げ大会のたこの作成から、四角形の性質について、説明したり、陸上から直接測ることができない船までの距離を求めることができる理由を説明したりする活動を通して、平面図形と数学的な推論についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の性質や関係を論理的に考察し表現することができるようになっている。第3学年では、条件を基に、地図上の船の位置を特定する方法を考えたり、ノートの横幅を3等分する線を作図する手順について考えたりする活動を通して、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができるようになっている。 ○ 関数については、第1学年では、箱をつくる際、切り取る正方形の1辺の長さを変えると、どのような数量が変わるか調べたり、数の範囲を負の数に広げ、比例と反比例のグラフの特徴を考えたりする活動を通して、比例と反比例についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察することができるようになっている。第2学年では、水そうに水を入れるとき、水そうの底から水面までの高さとお水を入れる時間の関係について、表にまとめ、調べたり、ダムの貯水量を予想する方法を考えたりする活動を通して、一次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。第3学年では、斜面を転がる球の転がり始めてからの時間と転がった距離の関係を表、式で調べたり、自動車の速さと制動距離の関係について考えたりする活動を通して、関数 $y = ax^2$ についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。 ○ データの活用については、第1学年では、紙ふぶきの滞空時間についての記録を表やグラフに整理し、分布の特徴を読み取ったり、まわり将棋において、駒を投げたときのその出かたの出やすさを考えたりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっている。第2学年では、くじ引きで、当たりやすさに違いがあるかについて、考えを説明した		

	り、各会社のインターネットの通信速度の測定結果を箱ひげ図を比較して、傾向を読み取ったりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっていく。第3学年では、対象となる集団から一部を取り出して、全体の傾向を調べる方法について考えたり、図書室利用に関する標本調査の結果を分析し、図書室の利用者数を割合を基に推定したりする活動を通して、標本調査についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができるようになっていく。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第1学年では、文字式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、数あてマジックのしくみを考えたり、問題解決の過程を振り返って、気付いたことやもっと調べてみたいことを話し合ったりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第2学年では、図形の性質の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、他者の求め方について、どのように考えたか説明したり、問題解決の過程を振り返って、気付いたことやもっと調べてみたいことを話し合ったりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第3学年では、相似の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、三角形の角の二等分線の性質を考えたり、問題解決の過程を振り返って、気付いたことやもっと調べてみたいことを話し合ったりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
内容の構成・排列	○ 内容の構成・排列については、第1学年では、データの活用学習において、データを活用して、問題を解決する学習の後に、整理されたデータから読み取る学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第2学年では、平証明とそのしくみの学習において、証明を記述する前に見通しを立てる学習の後に、証明の意味を考える学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第3学年では、二次方程式とその解き方の学習において、平方根の考えによる解法の学習の後に、因数分解を利用した解法の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。
使用上の配慮等	○ 学習の導入で日常の事象を取り上げたり、生活と関連付けて学習に取り組めるようにしたり、「節とびら」では、学ぶ楽しさや意義を実感できるよう、その節の学習を進めれば解決できる身のまわりの問題などを取り上げたりするなど、生徒の学習意欲を高めるよう工夫されている。（全学年） ○ これまでに学んだことを基にして考え、予想して、新しい学びにつなげる「ひろげよう」を設定したり、自らの学習を調整しながら学べるコーナー「数学広場」を設けたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。（全学年） ○ 文章の改行をすべて文節で行ったり、書体は識別がしやすいUDフォントを採用し、配色は色覚の特性によらず学びやすいものとなるようにしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。（全学年）
その他	

調 査 研 究 結 果

観 点	種目	発行者	教科書名
	数学	104. 数研	これからの数学1 これからの数学2 これからの数学3
取 扱 内 容	○ 数と式については、第1学年では、大縄跳びを跳んだ回数の平均を工夫して求めたり、字が消えたレシートから、買ったケーキの個数を求めたりする活動を通して、正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。第2学年では、誕生日を当てるマジックのしくみについて説明したり、クラスの30人全員がどこかの班に入るように、職場体験実習の班をつくったりする活動を通して、文字を用いた式と連立二元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができるようになっている。第3学年では、カレンダーで囲んだ4つの数について、きまりを見つけたり、周の長さが20メートルの花だんの面積について考えたりする活動を通して、数の平方根、多項式と二次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。		
	○ 図形については、第1学年では、地図や写真などから直線を探したり、形の特徴に注目して、いろいろな形の建物を探したりする活動を通して、平面図形と空間図形についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察することができるようになっている。第2学年では、鱗模様の基となる図形である正三角形の角について考えたり、2段重ねの工具箱の上の段の箱を支えるためのアームの取り付け方について考えたりする活動を通して、平面図形と数学的な推論についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の性質や関係を論理的に考察し表現することができるようになっている。第3学年では、地図から関西国際空港連絡橋の実際の長さを求めたり、サッカーのシュートが入りやすい場所を考えたりする活動を通して、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができるようになっている。		
	○ 関数については、第1学年では、硬貨の枚数と重さの関係を調べたり、xの変域を負の数まで広げたとき、対応するxとyの値の特徴を考えたりする活動を通して、比例と反比例についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察することができるようになっている。第2学年では、水そうの水の入れかえを行ったとき、水そうの水面の高さと時間の関係を式で表したり、水が沸騰する時間を予想したりする活動を通して、一次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。第3学年では、斜面に沿ってボールを転がしたときの時間と距離の関係を表から考えたり、自動車の速さと制動距離の関係を説明したりする活動を通して、関数$y = ax^2$についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。		
	○ データの活用については、第1学年では、過去の気温と天気の詳細データから行きたい場所の気温について調べたり、ペットボトルのキャップを投げて、何回表向きになるか予測したりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっている。第2学年では、2つのくじ引きの屋台のうち、どちらの屋台の方が当たりやすいか話し合ったり、生徒の体力テストのデータの傾向について、気付いたことを説明したりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こ		

	りやすさについて考察したりすることができるようになっている。第3学年では、標本調査を利用して、池にいる鯉の総数を推定したり、養魚場にある金魚を養殖している2つの池のどちらから注文の条件を満たした金魚を出荷するか考えたりする活動を通して、標本調査についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第1学年では、文字と式の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、正方形の花壇をつくるのに必要な石の数を求める式について考えたり、操作や図を使った解き方について話し合ったりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第2学年では、連立方程式の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、カーネーションとユリのセットの値段を基に、カーネーション1本あたりの値段を求める方法を考えたり、ユリの数をそろえるための工夫を考えたりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第3学年では、二次方程式の利用の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、条件に合う道をつくるために、花を植える土地の面積を1つの式で表したり、求めた値に合わせて、図を考えたりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
内容の構成・排列	○ 内容の構成・排列については、第1学年では、立体の体積と表面積の学習において、立体を構成する要素を整理する学習の後に、おうぎ形の弧の長さや面積を求める学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第2学年では、平行線と角の学習において、対頂角の性質を説明する学習の後に、同位角と錯角について調べる学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第3学年では、二次方程式の学習において、因数分解による解き方の学習の後に、平方根の考えを使った解き方の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。
使用上の配慮等	○ 数学の有用性が感じられるように、学んだ内容を活用して解決するタイプのTRYを各所に設けたり、「考えよう」「調べよう」など、活動的な話題や数学に関する職業について紹介するページを設けたりするなど、生徒の学習意欲を高めるよう工夫されている。（全学年） ○ 章や節の最初は、身のまわりにある事象から数学を見いだすことができるようにしたり、生徒キャラクターの対話場面を示し、課題に取り組む際にどのようなことに着目すればよいか、一目で分かるようにしたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。（全学年） ○ UDフォントを大きめのサイズで用い、文章は文節で改行したり、カラーユニバーサルデザインの観点から、色覚の特性によらず識別しやすい配色にしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。（全学年）
その他	

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	数学	116. 日文	中学数学 1 中学数学 2 中学数学 3
取 扱 内 容	○ 数と式については、第1学年では、清掃活動の参加人数の平均値を工夫して求めたり、図にあてはまる数を求めたりする活動を通して、正の数と負の数、文字を用いた式と一元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。第2学年では、陸上トラックのセパレートコースの1周の長さの差を求めたり、まんじゅうをちょうど32個買うための箱数を求めたりする活動を通して、文字を用いた式と連立二元一次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、文字を用いて数量の関係や法則などを考察することができるようになっている。第3学年では、正方形の花だんの縦と横の長さをのばし、面積を比較したり、モールでつくった長方形の飾りの面積について考えたりする活動を通して、数の平方根、多項式と二次方程式についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数の範囲に着目し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりすることができるようになっている。 ○ 図形については、第1学年では、地図を使って、写真を撮影した花だんの場所を見つけたり、建物の形の特徴について考えたりする活動を通して、平面図形と空間図形についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素や構成の仕方に着目し、図形の性質や関係を直観的に捉え論理的に考察することができるようになっている。第2学年では、いつでも成り立つ図形の性質について調べたり、上の段が下の段に平行に保たれる箱のネジの位置や棒の長さについて、図形の性質を使って考えたりする活動を通して、平面図形と数学的な推論についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の性質や関係を論理的に考察し表現することができるようになっている。第3学年では、縮図を活用して、直接測ることができない距離や高さを求めたり、地図から船の位置を考えたりする活動を通して、図形の相似、円周角と中心角の関係、三平方の定理についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、図形の構成要素の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができるようになっている。 ○ 関数については、第1学年では、歩数と歩いた道のりについて考えたり、数の範囲を負の数までに広げて、比例や反比例の特徴を調べたりする活動を通して、比例と反比例についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、数量の変化や対応に着目して関数関係を見だし、その特徴を表、式、グラフなどで考察することができるようになっている。第2学年では、プールの水面の高さが、水を入れた時間にもなるとどのように変化するか調べたり、ビーカーの水を熱し始めてからの時間と水温について予想したりする活動を通して、一次関数についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。第3学年では、表から、斜面でボールを転がしたときの5秒後の距離を予想したり、紙を2等分するように切った回数と紙の枚数の関係について考えたりする活動を通して、関数 $y = ax^2$ についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができるようになっている。 ○ データの活用については、第1学年では、20世紀の100年間における平均気温のデータから平均気温が高くなってきているか調べたり、ペットボトルのキャップを投げたとき、表向きと裏向きの出やすさについて判断したりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっている。第2学年では、くじの当たりやすさを調べて説明したり、60年間のデータから3つの都市の冬日の傾向について話し合ったりする活動を通して、データの分布と確率についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、複数の集団のデータの分布		

	に着目し、その傾向を比較して読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりすることができるようになっている。第3学年では、池にいるニジマスの数を推定したり、ある県の知事選挙で、どの候補者が当選するか予想するための事前調査の方法について、適切とは言えない理由を考えたりする活動を通して、標本調査についての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、標本と母集団の関係に着目し、母集団の傾向を推定し判断したり、調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができるようになっている。 ○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、第1学年では、正の数と負の数の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、参加人数を基にして、基準となる数を変えたり、計算が簡単になるように基準を決めたりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第2学年では、式の計算の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、身近なことがらを数学の問題にするために、条件を明確にしたり、式の意味を読み取って振り返って考えたりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。第3学年では、式の展開と因数分解の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、根拠を明らかにするために目的に合うように式を変形したり、条件を変えてつくった新しい問題を考えたりするなどして、考えを広げたり深めたりする活動が取り上げられている。
内容の構成・排列	○ 内容の構成・排列については、第1学年では、基本の作図の学習において、垂線の作図の学習の後に、これまでに学習したことと結びつけて 45° の角を作図する学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第2学年では、図形の性質と合同の学習において、三角形の角の学習の後に、補助線を使った角の大きさの求め方の学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。第3学年では、関数 $y = ax^2$ の性質の学習において、関数 $y = 3x^2$ の学習の後に、比例定数を負の数に広げて考える学習を扱うなど、系統的・発展的に学習できるようになっている。
使用上の配慮等	○ 章の扉では、生徒に疑問を抱かせ、どうすれば疑問を解消できるのかと興味を引くようなことがらを写真やイラストを使って紹介したり、その疑問を数学の問題として解決していく過程を丁寧に扱ったりするなど、生徒の学習意欲を高めるよう工夫されている。（全学年） ○ 巻頭に「主体的に学習に取り組む態度」とはどのような態度なのかが生徒や保護者にも分かるように、具体例とともに明示したり、各章で、数学のよさについて考える活動や数学を生活や学習に生かす活動を適宜設けたりするなど、生徒が主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。（全学年） ○ UD フォントを全面的に使用し、文章は読みやすい位置で改行したり、見分けやすい配色や色以外の情報を追加するなど、誰もが情報を読み取ることができるようにしたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載するなど、使用上の便宜が図られている。（全学年）
その他	